

歴史点描 8 津市場稲荷神社の玉垣と由加社

社を巡らす玉垣に、大正 6 年営業の上余部にあった株式会社松本永銀行のものがありません(昭和 10 年松本銀行に改称)。平成 29 年翻刻された興浜で網干町政や網干銀行、マッチ製造にも携わっていた山本真蔵氏の日記、そこに登場する松本永五郎氏は、マッチ産業との繋がりで財をなし銀行設立に至ったのでしょうか。

境内右には旧満州の安東県と記された内海姓のものが非常に興味深いです。内海姓の方が渡満された状況は不詳ですが、その地で成功をおさめ、故郷の村の鎮守への玉垣奉納に繋がったのではないのでしょうか。

境内東奥の由加社について『津市場由来考・津田實著』は岡山県倉敷市児島の由加山の由加神社と並び祀られる^{いわれ}瑜加山蓮台寺を厄除け神として勧請、村を災厄から守る願いを込めて一社を建立したのだらうと記します。日本三大権現の一つと位置付けられる^{ゆが}瑜加大権現は、四国の金比羅宮を対岸に見据えその賑わいに羨望の目を向けていた。そこで片方だけお詣りしても御利益は半分、両方詣ってこそその御利益である「両詣り」制が考えられた。「津市場北」集落はかつて津市場出屋敷と呼ばれ鎮守は琴平神社を名乗る。費用の嵩む「両詣り」制を村内で済ますとの思惑のある社かも知れません。

歴史講座会員 御津町肥塚昭子



境内左中央 松本永銀行



旧満州安東県 内海かね



境内右側の由加社